

経済産業部

平成14年度経済産業省所管統計調査功績者表彰状の伝達

経 経済産業部では、去る10月30日に統計の日の関連事業として経済産業省所管の統計調査に関して功績のあった個人1名に対し、経済産業大臣表彰式を行いました。

今年度の栄えある受賞者は、統計調査員として動態統計調査に10年以上従事された「喜屋武智子」さんで古谷経済産業部長から表彰状と副賞が授与されました。

経済産業省が実施する動態統計調査の結果は、我が国鉱工業の生産、出荷、在庫の動向や石油等の消費動態を把握するものとして極めて重要なものであり、国や地方自治体における景気対策、中小企業対策など諸施策の策定のほか、企業における経営分析等に役立つ資料として各方面で活用されています。

この度の喜屋武さんの受賞は、このような統計調査を行うに当たり、草の根的かつきめ細かな調査対象事業所への対応や調査票の提出期限内の収集、更には調査事務の効率化・円滑化に努めてこられた功績が評価されたものです。



古谷経済産業部長から表彰状と副賞を授与される喜屋武智子さん

農林水産部

「松くい虫ゼロ大作戦」始まる

去 る9月19日、読谷村の座喜味城址において、国、県、米軍、市町村、村民、関係団体等が参加し、県民意識の高揚を図るため「松くい虫ゼロ大作戦」県民大会が開催されました。

沖縄県の重要な森林資源であるリュウキュウマツは、昭和48年に松くい虫が侵入して以来、本島中北部を中心に、大きな被害を受けており、沖縄県では、平成14年3月30日に「沖縄県松くい虫の防除に関する条例」を制定し、平成14年～18年の5カ年で松くい虫被害の終息を図ることとしています。



県民大会当日は約1,200人が参加する中、国吉農林水産部総務調整官は「県木として親しまれている貴重なリュウキュウマツを松くい虫から守ることは、資源の維持・造成を図り、森林の多様な機能を高度に発展する上で、極めて重要である」と挨拶しました。

式典後、参加者は伐倒した被害木の搬出に汗を流し、当日の大会を終了しました。

沖縄県総合事務局では、松くい虫防除対策をはじめ、各般の施策を支援し、森林・林業の活性化を推進していくこととしています。

総務部

細田博之 沖縄及び北方対策担当大臣が就任後初来沖



細 田博之 沖縄及び北方対策担当大臣が主任後初めて、10月11日から12日の日程で来沖されました。

細田大臣は、11日午後3時に那覇空港に到着し、国立沖縄戦没者墓苑を参拝するとともに大臣の出身地である島根県の慰霊碑、島根の塔を参拝後、稲嶺沖縄県知事及び伊良皆沖縄県議会議長との懇談、グレゾン在日米軍沖縄地域調査官をはじめとする米軍基地関係者との意見交換会を行いました。

12日には、航空自衛隊のヘリコプターに搭乗し、空から沖縄本島内の米軍施設を視察し、沖縄産業支援センターの視察、県内経済団体代表者との懇談、市町村四団体及び各圏域団体代表との懇談等を行い、12日の午後、帰任されました。

なお、10月11日午後、細田大臣は沖縄総合事務局を訪れ、「沖縄総合事務局は機能的に各省との連携を深くして沖縄発展のため頑張っていますが、新しい振興計画もでき、各種特区、新沖縄大学院大学の設置などとともに、高失業率などの諸問題を克服できる起爆剤として職員の皆様にはさらに努力をお願いします。一緒に頑張りましょう。」と職員を激励しました。

運輸部

平成14年度船員労働安全衛生月間の実施



陸 上労働者に比べて約5倍も発生割合の高い船員の災害、生活習慣病の割合が高くなりつつある疾病、その防止への意識を高めようと、九月を船員労働安全衛生月間とし、各種の行事を展開しました。

月間ははじめの3日、沖縄県水産会館において船員、船舶所有者、行政機関等百名余の参加のもと船員災害防止大会が開かれ、長引く不況下においても災害の絶無と健康の維持活動を推進していこうとする大会宣言がなされました。

この後、「働き盛りの健康管理 - 生活習慣病を中心に - 」と題して琉球大学医学部教授 有泉 誠氏による特別講演が行われました。

このほか、作業用救命衣、安全靴、救命浮環等、船員の保護具の展示場も開設され、真夏時の着用でも苦にならないタイプの作業用救命衣には、参加者らの感心が集まりました。

また月間中には官民からなる訪船指導班が、県内各港に停泊中の船舶を訪れ、海中転落事故を防ぐための舷梯（岸壁と船舶を結ぶ梯子）の設置状況、注意箇所へのトラマーク表示（黄と黒の縞模様）の有無、健康証明書の有効期限等、数十の項目についての点検指導を行い、災害・疾病防止への意識高揚を図りました。

開発建設部

「第11回アジア地域土木研究所長等会議」開催

10 月22日～24日にかけて万国津梁館（名護市）で開催された本会議には、インド、インドネシア、韓国、ラオス、マレーシア、パキスタン、フィリピン、スリランカ、タイ、及び日本から約100人が参加しました。

本会議は、アジア諸国の枢要な立場にある幹部技術者が意見交換を行い、研究交流ネットワークを形成することを目的に平成4年度から開催されています。



国土交通省大石技監による来賓挨拶

今回は、洪水や干ばつへの対応など、「持続的発展可能な水管理のあり方」をテーマに各国の水管理について報告が行われました。霜上次長は、「沖縄の水資源開発とダム統合運用」と題し、講演を行いました。

また、「ダム統合運用」「環境保全（ダム、道路）」をテーマに海外研修生、当局職員および県職員による討議が行われ、海外研修生から「ダム統合運用の安全性管理の具体的な事例について」等の質問が出されるなど活発な討議が行われました。

関係各機関のご協力の下、本会議は無事終了致しました。この場を借りて御礼申し上げます。

開発建設部

平成14年度全国道路標識週間の実施

道 路標識の充実と利用者の利便向上を図ることを目的に、平成14年10月1日から7日まで各道路管理者、公安委員会の協力のもと全国道路標識週間を実施しました。

今年の活動は、ポスター掲示、ラジオ放送、道路情報板、電光掲示板等による広報、街頭でのリーフレット配布、沖縄県庁1Fロビーと道の駅「許田」にてパネル展示を行いました。

また、今年の新たな活動としては、道路管理者及び道路利用者等が標識に対する問題点や維持管理、今後の取り組みなど意見を交換する場として「沖縄県道路標識等改善懇談会」を11月中に開催することとします。

なお、道路標識・表示に関する一般の方からの意見を求めるための標識BOX（意見箱）を現在県内51箇所に設置しており、さらに、インターネットホームページにもコーナーを開設しています。

<http://www.dc.ogb.go.jp/kyoku/>

hyoshiki-box/index.html

寄せられたご意見については、今後の標識整備に反映していくこととしています。（道路管理課）



県庁1Fロビーでのパネル展示の様子